



学園花の村機関紙第102号

2018年10月1日(月)

編集兼発行人 伊藤公博

042-636-8290

Fax 042-636-8291

〒192-0914

八王子市片倉町

937-78

まじまじ、そいじじ

学園はなの村代表

池守幸一

この夏は本当に暑かった。全国では40℃超えるところも出て、「真夏日」、「猛暑日」の気象用語ではカバーできないほどの暑さとなりました。我が畑の野菜も高温が過ぎたか生育が思わしくなく、逆に虫は高温を喜んで虫の被害がひどく、人間の体も熱中症っぽくなったりで散々でありました。

問題はここ先です。来年の、再来年の夏はどうなるのか。いわれているように、この異常気象の原因が二酸化炭素だとすると、この暑さはもっと、もっと暑くなっていくのでしょうか。また、困ったことです。

異常気象は二酸化炭素の増大が原因ならばその解決策はいたって簡単です。二酸化炭素の排出量を減らせばいいのですから。それができないのが、快適、便利、スピードなどを旨とする現代文明です。この現代文明の甘い果実で、

そうは簡単に二酸化炭素を減らせられない。本丸はここなのに、ここには手をつけられず、自然エネルギーとか電気自動車など技術で回避しようとする。現代文明そのものに修正をかける。ここに迫らなければ、問題の先送りに終わってしまう。爛熟の現代文明のほしいままにすれば、この地球がもたないとしてどうして理性が働かないのでしょうか。

悲しいけど21世紀の世界はいまだに理性よりも金儲け・拝金が大手を振っています。あの今を時めくグーグル、アマゾン、フェイスブック、アップルなどの企業群を見よ。巨額の利益をあげるだけでなく、税金の不払いまで徹底しています。AI時代にはさらに度外れになる。まさに金色夜叉の群れです。

世界が、特に経済先進国がほどほど、そこそこにならねばなりません。経済と科学技術の進んだ国ほど、ほどほど、そこそこができていない。ニッポンなんか、その代表です。金儲け、拝金が国是になっている。

さて、どうするかです。国是になってはいても、一人ひとりが拝金の呪縛から解放放たれて

行くしかありません。即効性もなく、規模も大きくはありませんが、やっぱり有機農業でしようか。

地球46億年の来し方行く末に思いを馳せながら万物の生命を尊び、天地自然に働きかけ、働きかけられて土を耕す。稼ぐ農業とは遠いところになるけど、この輪が広がればと、ひとクワ、ひとクワ…… 迂遠のようでもこの繰り返しです。 **がんばれ有機農業。**

「ミ」の行方の追及

故佐々井典比古報徳博物館長が、耕作放棄地問題を語る「学園はなの村」創始者故宮城正雄さんを博物館ゼミの講演者として我々に紹介されてから、かれこれ四半世紀。改めて時の流れを思います。月刊誌「かいびやく」の巻頭言を集めた佐々井さんの著作「**尊徳の裾野**」の中の「**大祓いの祝詞**」なる一文を思い出しました。

大祓いの祝詞によって「人々が過ち犯しけむくさぐさの罪が祓い清められるのである。」が、「祓われた後の罪、けがれの行方」がどうなるかが心配です。祝詞では四柱の神の手を順番にリレーされて検出不能、消えてしまうのだそうです。佐々井さんは古代の「罪」を「公害物質・産業廃棄物」に置き換えて現代人に問題解決を呼びかけておられます。(伊藤公博)

イヌマキの木の実、ヤゾウ小僧

小 関 栄

マキ(槲)は真木に由来するもので、マキ科の植物の総称。これには約140種類と実に多いが、マキの木の代表的なのが庭木としてよく見かけるイヌマキである。

このイヌマキは5月に褐色の筍状の小さな花が咲き、盛夏を過ぎる頃に緑と赤のダルマ状の実になる。これをヤゾウ小僧と云う。ヤゾウ(弥蔵)と云うのは、握り拳(こぶし)を懐に



入れて肩を突き上げる昔の博徒^{ばくど}か役者姿、小さいから小僧さんと云う意味で名付けられたらしい。

このダルマ状の実は、上の写真の様に、上の部分の濃緑色の固い小玉が実際の種子、下の小玉の赤い薄皮に包まれた柔らかな部分が実種の栄養素を包んだ仮種だ。この実を食べるとグミやクワの実と同じように甘酸っぱい。子供の頃、風邪を引かないからと採って食べたのが懐かしい。中国ではイヌマキを羅漢松(Luohansong)と云って、この実や根っ子を漢方薬に用いられているという。

マキは日本古来の木、暖地に多く自生しているが、精力強く、寒暑にも耐えて常緑なので、庭木や垣根として好まれて、この界隈の庭地に植えられている。(左の写真は我が家の庭木 30.9.21 撮影)

葉陰から ヤゾウ小僧が 顔をだす 淡水

秋だ！収穫祭だ！20周年だ！

早いもので学園はなの村、光陽の里は創立20周年。それを記念し収穫祭を共催する。10月28日(日)10時～12時、恒例の収穫祭会場には野菜、焼きそば、焼き芋、けんちん汁など有機・無農薬の食べ物・野菜の出店が並ぶ。最後のビンゴゲームの賞品も素晴らしい。記念行事として学園はなの村代表池守幸一さんが焼き芋売り場の横で、日本農業の現状とその問題点を分かり易く説く露店説明会を予定しております。皆さんこぞってご参加ください。

光陽の里楽農会代表 野田芳宏

それでも草花も野菜も季節を告げています

「活き粋 ばあばの学舎だより」(6) 柴 桂子



ここ掛川でも猛暑の後、なかなか秋がやってこない。それでも季節の草花はちゃんと秋を知らせてくれる。畑の隅に突然、深紅や黄色の曼珠沙華が華やかに咲いた。花オクラやオクラの残りの黄色い花も畑をあやどっている。15センチほどもある花オクラは見入るほど美しく、食用にもなると近所の方が教えて下さったの

で、酢物やサラダを包んで食した。猛暑の野菜不足は、王様の野菜と呼ばれるスタミナ野菜のモロヘイヤやゴーヤ、ネギ、ツルムラサキ、オクラ、人参、黒瓜などで補った。おいしい秋ナスが元気に実を付け始めた。

白内障の手術ではポッポ屋原谷会福祉部の「小っちゃなお助け隊」に随分お世話になった。病院の送り迎えや手術の付添いまでお願いした。自分で刈り込んだ庭木の処分や、庭の砂利石敷き、防犯用窓の棧打ちなどもお願いした。駅舎に折り畳み式の看板を置き、ポッポ屋の行事を始め、伝言板には近隣の文化祭や行事のパンフレットを張りって同行者を募ったり、不用品などの掲示をしている。「小っちゃなお助け隊」は困った時の相談・お助け隊で、いわば日常生活の保険のようなものであり、特に独り暮らしの高齢者には心強い。

「活き粋 ばあばの学舎」には遠くからの来訪者も増えつつある。毎月の定例講座「江戸の女ともだち」には浜松市や御殿場市、小山町からも来て下さり、講座の後は飲み会になる。9月はロンドン大学の院生やドイツハイデルベルク大学の教授も来られ、江戸時代の勉強を夜遅くまでともに楽しんだ。

9月の最終金・土・日は、長い歴史を有す地元の五社八幡神社の祭礼が行われた。6地区の屋台引き回しや夜の合同練、さらには最終日には6台の屋台が急坂を登っての宮入り参拝は華やか、かつ勇壮である。私は2回目となる今年のお祭りには法被や祭り提灯を購入し、屋台の行列に連なり、夜は「活き粋 ばあばの学舎」でも皆と酒盛りを楽しんだ。



捨てられる前に

やるべきこと

里山倶楽部 溝口博之

今年は途方もなく暑くて外の作業がはかどりませんね。いつのころから異常気象が続いてこれが平常気象になっちゃうのでしょうか。昭和四十年代半ばまでは昨年

こうだったから今年もそうだろう・・が通用した気がします。天候だけでなく経済とか科学技術など行きつくところまで来てしまつて、今後の予測がむつかしくなってきました。私は、コンピュータ

ー社会を自分の脳みそ構造で理解できなくなつて、商売の仕方も変わつてきて・・こりや引退だあと匙を投げてからもう五、六年になります。

増え続けています。寝たきりで胃

から栄養を取っている人でも、本人がそれで生きている意義を感じているのならその生活も悪くはないでしょうが、苦しがつている人も大勢いるでしょう。介護施設は現代版の姥捨て山、ペットなら病

気でもボケても死ぬまで一緒に介護するのにな。へんてこな世になつたね。

生殖能力が無くなつたら、余計なことは考えず、生きがいを見つけて人生を楽しもう。そして、飽きるほど楽しんだら家族や世のために延命処置なんか断つて、捨てられる前に急いで長旅に出よう。私も、引退少し前に里山倶楽部を立ち上げ、倉馬の里を中心に皆さんと一緒にしつかり楽しんできました。花の村創立者の皆さんのように大きな志はありませんが、一緒に何かをやることでみんなが楽しんで、健康増進につながれば最高だと思えます。平均寿命を目安に今後自然に任せて生きて行こうと思います。一緒に遊んでよオオ！

食の安全安心を求めて

布マルチ稲作試行報告

学園はなの村事務局長

藤本 将

現在日本人の二人に一人は一生の間にガンにかかると言われてい

る。このままでは日本民族は滅亡するのではないかと思う。

日弁連のデータによると日本と韓国の二か国が先進国の中でもずばぬけて多いとされている。「学園はなの村」は創設されて以来二十年が経過しているが「有機農業」・「相互扶助」・「自立」の三本柱を軸に

荒廃農地の再生を呼びかけている。

『布マルチ稲作』は学園はなの村のメインの施策として従来から力を入れているが昨年は代かきの失敗から田圃に高低差が生じ失敗した。今年は昨年の失敗に鑑み代かきを丁寧にやり田圃の行程差をなくした。石山保氏、溝口博之氏には布マルチ稲作のキーポイントとなる「布浮かべ灌漑」をお世話いただくことになり、綿密で手間

のかかる今日水管理に御注力頂いており恐縮の限りである。

おかげで今年の布マルチ稲作は順調に推移しており、九月の台風による倒伏被害による一割程度の減収見込みはあるものの、四俵程度の収穫は期待できるとおもわれる。

刈り取りは十月上旬、コンバインでやる予定である。天日干しは台風の発生が多く雨を伴うので、断念しました。

全国報徳団体連協議会の皆様にはご支援いただき、心からお礼申しあげます

写真は収穫を待つ布マルチの田圃

